

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。不要

学校名	
設置者名	

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	愛知県立農業大学校
設置者名	愛知県立農業大学校長 友松啓二

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数 (数字：単位)

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難	
教養科目	くらしと経済	夜・通信	0	0.6		
	くらしと法律Ⅰ	夜・通信	0			
	自然科学	夜・通信	0			
	生物学実験	夜・通信	1			
	実践英語	夜・通信	0			
	体育	夜・通信	0			
専門科目	全課程共通	農業経営Ⅰ	夜・通信	0	0.6	
		経営管理	夜・通信	1		
		経営管理演習	夜・通信	1		
		農業政策Ⅰ	夜・通信	1		
		農業政策Ⅱ	夜・通信	1		
		農業簿記	夜・通信	0		
		土壌肥料学	夜・通信	1		
		土壌肥料学実験	夜・通信	0		

専門科目	(全課程共通)	農業機械利用	夜・通信	1	0.6	
		農業機械実習	夜・通信	1		
		情報処理演習	夜・通信	2		
		GAP・環境保全と農業	夜・通信	0		
		海外派遣研修	夜・通信	2		
	園芸農産課程	育種と採種	夜・通信	1		
		植物生理Ⅰ	夜・通信	0		
		植物生理Ⅱ	夜・通信	0		
		土壌と施肥設計	夜・通信	1		
		病虫害と防除計画	夜・通信	1		
		派遣実習	夜・通信	7		
		卒業論文	夜・通信	6		
	畜産課程	家畜栄養(畜産)	夜・通信	1		
		家畜育種(畜産)	夜・通信	1		
		家畜繁殖(畜産)	夜・通信	1		
		飼料作物(畜産)	夜・通信	1		
		家畜生理(畜産)	夜・通信	1		
		派遣実習	夜・通信	7		
		卒業論文	夜・通信	6		
	選択科目	農業経営Ⅱ	夜・通信	1		
		くらしと法律Ⅱ	夜・通信	0		
労働の科学		夜・通信	0			
農村生活環境		夜・通信	1			
健康と栄養科学		夜・通信	0			

(選択科目)	文章表現	夜・通信	0			
	実用数学	夜・通信	1			
	農業時事	夜・通信	1			
	作物学概論	夜・通信	1			
	園芸学概論	夜・通信	0			
	畜産学概論	夜・通信	1			
	バイテク論	夜・通信	1			
	資格取得講座Ⅰ	夜・通信	1			
	資格取得講座Ⅱ	夜・通信	1			
	資格取得講座Ⅲ	夜・通信	1			
	資格取得講座Ⅳ	夜・通信	1			
専攻科目	鉢物・緑花木専攻	鉢物・緑花木栽培概論	夜・通信	1	0.6	
		鉢物・緑花木栽培各論	夜・通信	1		
		鉢物・緑花木機械施設利用演習	夜・通信	1		
		鉢物・緑花木先端技術演習	夜・通信	1		
		鉢物・緑花木植物生長調節技術	夜・通信	1		
		鉢物・緑花木病害虫対策演習	夜・通信	1		
		農産加工演習	夜・通信	1		
		鉢物・緑花木流通論	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
	切花専攻	切花栽培概論	夜・通信	1	0.6	
		切花栽培各論	夜・通信	1		
		切花機械施設利用演習	夜・通信	1		
		切花先端技術演習	夜・通信	1		

(専攻科目)	(切花専攻)	切花植物生長調節技術	夜・通信	1		
		切花病虫害対策演習	夜・通信	1		
		農産加工演習	夜・通信	1		
		切花流通論	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
	作物専攻	水稻栽培論	夜・通信	1	0. 6	
		水田高度利用	夜・通信	1		
		水田作機械施設	夜・通信	1		
		水田作機械利用演習	夜・通信	1		
		作物先端技術演習	夜・通信	1		
		作物病虫害対策演習	夜・通信	1		
		農産加工演習	夜・通信	1		
		米流通論	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
		果樹専攻	果樹栽培概論	夜・通信		
	果樹栽培各論		夜・通信	1		
	果樹施設栽培論		夜・通信	1		
	果樹機械施設利用演習		夜・通信	1		
	果樹先端技術演習		夜・通信	1		
	果樹病虫害対策演習		夜・通信	1		
	果樹加工演習		夜・通信	1		
	果樹流通論		夜・通信	1		
	専攻実習		夜・通信	2 2		

(専攻科目)	露地野菜専攻	露地野菜栽培概論	夜・通信	1	0.6	
		露地野菜栽培各論	夜・通信	1		
		露地野菜機械施設	夜・通信	1		
		露地野菜機械施設利用演習	夜・通信	1		
		露地野菜先端技術演習	夜・通信	1		
		露地野菜病害虫対策演習	夜・通信	1		
		露地野菜加工演習	夜・通信	1		
		青果物流通論	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
	施設野菜専攻	施設野菜栽培概論	夜・通信	1	0.6	
		施設野菜栽培各論	夜・通信	1		
		施設野菜機械施設	夜・通信	1		
		施設野菜機械施設利用演習	夜・通信	1		
		施設野菜先端技術演習	夜・通信	1		
		施設野菜病害虫対策演習	夜・通信	1		
		施設野菜加工演習	夜・通信	1		
		青果物流通論	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
	酪農専攻	牛飼養管理	夜・通信	1	0.6	
		牛機械施設	夜・通信	1		
		牛機械施設利用演習	夜・通信	1		
		牛先端技術演習	夜・通信	1		
		家畜衛生学	夜・通信	1		

		環境保全演習	夜・通信	1		
		乳肉流通加工	夜・通信	1		
(専攻科目)	養豚・養鶏専攻	乳肉流通加工演習	夜・通信	1		
		専攻実習	夜・通信	2 2		
		豚・鶏飼養管理	夜・通信	1	0. 6	
		豚・鶏機械施設	夜・通信	1		
	豚・鶏機械施設利用演習	夜・通信	1			
	豚・鶏先端技術演習	夜・通信	1			
	家畜衛生学	夜・通信	1			
	環境保全演習	夜・通信	1			
	豚肉・鶏卵流通加工	夜・通信	1			
	豚肉・鶏卵流通加工演習	夜・通信	1			
専攻実習	夜・通信	2 2				
(備考)						

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学校内にて資料閲覧（学生便覧で実務経験のある教員を記載し公表）

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	なし
(困難である理由)	特になし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】不要

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 理事（役員）名簿の公表方法

--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	愛知県立農業大学校
設置者名	愛知県立農業大学校長 友松啓二

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	愛知県立農業大学校外部評価委員会
役割	<p>本校では教育の質の向上や学校運営の継続的な改善を図るため学校評価を実施している。</p> <p>農業大学校の職員が評価取組シートにより自己評価を行った結果をもとに6名の外部評価委員（大学教授、同窓会代表者、農業高校代表者、農業経営者、生産者代表者、マスメディア（新聞社））による愛知県立農業大学校外部評価委員会で評価を行い、その評価結果を活かし、関係機関等と連携協力しながらより良い学校作りに努めている。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
龍谷大学 農学部 食料農業システム学科教授	1年	農学分野における専門知識を有する大学教授
愛知県立農業大学校同窓会 会長	1年	本校卒業生、農業経営者
愛知県立安城農林高等学校 校長	1年	農学分野における専門知識を有する高校教諭
農業生産法人株式会社中甲 代表取締役社長	1年	先進的農業経営に従事している農業経営者
愛知県農業協同組合中央会 担い手対策部長	1年	農業の中核である生産者代表
中日新聞社事業局社会事業 部長	1年	幅広い視野を持った学識経験者
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知県立農業大学校
設置者名	愛知県立農業大学校長 友松啓二

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1 成績評価基準と評価方法の周知 各科目の成績評価基準と評価方法はシラバスにて記載するものとする。シラバス等については閲覧を可とすることにより、外部・学生等に周知する。なお、到達目標と評価の関係については各科目の初回講座にて学生に周知をする。 成績通知書及び成績証明書については単位を取得した科目、評価を記載する。</p> <p>2 講師の実務経験等 本学科の教育目標を具現化し、農業の専修学校としての教育水準を保つには農業分野の専門的知識・技術を有する者による教授が必要である。その実務要件については、 ア 農業又は家政等の試験研究業務、普及指導、教育に従事した者 イ 農業に関する専門的知識・技術や応用能力を備えた者 ウ 上記ア、イと同等以上の知識・技術があると認められた者とする。</p> <p>※ 授業計画書の作成にあたり、各教科担当者が授業の方法、授業の内容、年間の授業の計画、到達目標、成績評価の方法・基準等を次年度の教育計画(カリキュラム)について「教育計画企画連絡員会議」で検討し、毎年度末までにシラバスを作成し、一冊のシラバス集としてまとめ、第三者が閲覧できるようにしてある。</p>	
授業計画書の公表方法	大学校内にて資料閲覧を可とする。(履修規程及び履修規程取扱要領)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

1 履修認定、単位認定、成績の評価、評価内容の基準

(1) 履修認定

履修は履修科目ごとに次の出席条件を満たすものを認定とする。

① 講義	当該履修科目の時間数の4分の3 (11 時間) 以上
② 演習・実験	当該履修科目の時間数の5分の4 (24 時間) 以上
③ 実習	当該履修科目の時間数の5分の4 (36 時間) 以上 ただし、専攻科目の専攻実習については、次の期間ごとの時間数の20 分の19 以上出席し、総合評価で「可」以上の成績評価が与えられた者に単位を認定する。 ・春期休業終了日翌日から夏期休業開始日前日まで ・夏期休業終了日翌日から冬期休業開始日前日まで ・冬期休業終了日翌日から春期休業開始日前日まで なお、10 分の8 以上出席している場合は、許可を得て補充実習を長期休暇中等に行い、所定の実習時間を満たしたときに評価の対象となることができる。

(2) 単位認定、成績の評価、評価内容の基準

単位は講義を担当する講師により「可」以上の成績評価が与えられた科目について認定とする。

判定	評点	評価	評価内容基準
合格	80点以上100点以下	優	到達目標を十分に満たしている。
	70点以上80点未満	良	到達目標を概ね満たしている。
	60点以上70点未満	可	到達目標を満たしている。
不合格	60点未満	不可	到達目標を満たしていない。

2 評価方法の基準

成績の評価は記述試験、課題レポート・ポートフォリオ等の提出、口述等の方法や学校行事を含む受講の参加姿勢(意欲)、実験実習等の内容の理解を加味し、総合的に評価する。なお、科目の形態、目標、内容等を考慮し複数の評価方法を用いる。

実践的な技術や経営方法を習得させるため、講義・演習科目では知識と応用を中心に評価する。実習を伴う科目は技能、取組態度、レポート等を中心に評価する。

3 卒業論文等の評価

研究論文内容、発表時の発表の仕方や応答、取り組み姿勢、その他の評価内容を考慮の上、総合的に評価する。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績分布状況の把握

成績の基礎となる評点から単位取得した成績の評価(優、良、可)を下記のように一定のポイントに置き換え、平均点を算出する。この平均点は客観的に各学生の学習到達度を計り、履修計画、学習指導の指標とする。この評点・ポイントの平均点をもとに学生の成績の分布状況や学習状況を把握し、進級・卒業にむけ、適切なる指導を行う資料とする。

判定	評点	評価	ポイント
合格	80点以上100点以下	優	5
	70点以上80点未満	良	3
	60点以上70点未満	可	1
不合格	60点未満	不可	0

ポイント：優＝5、良＝3、可＝1、不可＝0

$$\text{平均点} = \frac{5 \times \text{優の取得科目数} + 3 \times \text{良の取得科目数} + 1 \times \text{可の取得科目数}}{\text{学生の総修得科目数}}$$

※資料として平成30年度学生の成績評価順位一覧表を添付する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学校内にて資料閲覧を可とする。(履修規程及び履修規程取扱要領)
------------------	----------------------------------

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

農業大学校進級・卒業認定委員会により本校履修規程に基づき、卒業要件は選択科目8単位を含む79単位を履修し、教養科目7単位以上、選択科目8単位以上、専門科目30単位以上、専攻科目27単位以上の合計取得単位数72単位以上とする。

(1) 単位

- ① 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習・実験 30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実習 45時間の授業をもって1単位とする。

ただし、授業1時間は45分とし、日課時限としては1時限を90分としているため、1時限は2時間の授業となる。

(2) 全履修単位数、必要単位数

(単位)

区分	学年	講義	演習・実験	実習	合計	全履修単位数	卒業必要単位数
教養科目	1年	3	3	0	6	8	7
	2年	0	2	0	2		
専門科目	1年	11	2	8	21	33	30
	2年	2	10	0	12		
選択科目	1年	9	0	0	9	16	8
	2年	7	0	0	7		
専攻科目	1年	2	1	10	13	30	27
	2年	2	3	12	17		
合計		36	21	30	87	87	72

卒業の認定に関する方針の公表方法

大学校内にて資料閲覧を可とする。(進級・卒業認定委員会設定要綱、履修規程、履修規程取扱要領)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②

学校名		
設置者名		

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法： ） （概要）
卒業の認定に関する方針（公表方法： ） （概要）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： ） （概要）
入学者の受入れに関する方針（公表方法： ） （概要）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
—	—	人	人	人	人	人	人
—	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
—		—				—	
—		—				—	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要)
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	愛知県立農業大学校
設置者名	愛知県立農業大学校長 友松啓二

1. 財務諸表等 不要

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		園芸農産	鉢物・緑花木 切花 作物 果樹 露地野菜 施設野菜 酪農 養豚・養鶏	○			
		畜産					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 72 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		540 時間	630 時間	1,350 時間	時間 時間	
		2,520時間/87単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人		190人	人	21人	人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>1年次</p> <p>教養科目では、農業は、生物を基礎に物理や地質、気象等、自然を科学した産業であるため、生物学や物理学等の基礎を総合的に学習することに重点を置き、自然科学、生物学実験など6科目の講義、演習・実験を履修する。</p> <p>専門科目では、先進農家等において、より実践的な技術や経営方法を体験し、将来の営農計画の参考にし、農家の人間性や考え方及び地域との関わり方を肌で感じ、将来の生活設計を学習することに重点を置き、派遣実習を始め15科目を履修する。</p> <p>選択科目では、1年次に9科目を開講し選択により履修する。</p> <p>専攻科目では、8つの専攻があり、各専攻とも講義が2科目、演習・実験が1科目、実習が1科目あり、専攻実習では基本的な栽培技術を体得することに重点を置き、栽</p>

培技術に関する基礎的知識や専門的知識を講義や演習により体得する履修を設けている。(参考資料は学生便覧のP5～P9でカリキュラムの概要、P18～P39で授業の内容、年間の授業計画を参照)

2年次

教養科目では、グローバル化がますます進展する中、国際交流に欠かせない語学力を身に着けることが必要になる。日常的に使う挨拶など、基礎的な英会話能力を学習することに重点を置き、実践英語を始め2科目を履修する。

専門科目では、海外農業の事情を直に体験、視察し国際感覚を高めるとともに広い視野で農業を見つめることのできる感覚を学習することに重点を置き、海外派遣研修を始め2科目の講義、4科目の演習・実験を履修する。

選択科目では、2年次に7科目を開講し選択により履修する。

専攻科目では、8つの専攻があり、各専攻とも講義が2科目、演習・実験が3科目、実習が1科目あり、特に専攻実習ではより専門的な知識を学習し、企画力や経営管理能力を養うことに重点を置き、実践力の強化とマネジメント能力を体得する機会を設けている。(参考資料は学生便覧のP5～P9でカリキュラムの概要、P18～P39で授業の内容、年間の授業計画を参照)

(1) 単位

- ① 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習・実験 30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実習 45時間の授業をもって1単位とする。

ただし、授業1時間は45分とし、日課時限としては1時限を90分としているため、1時限は2時間の授業となる。

(2) 全履修単位数、必要単位数

(単位)

区分	学年	講義	演習・実験	実習	合計	全履修単位数	卒業必要単位数
教養科目	1年	3	3	0	6	8	7
	2年	0	2	0	2		
専門科目	1年	11	2	8	21	33	30
	2年	2	10	0	12		
選択科目	1年	9	0	0	9	16	8
	2年	7	0	0	7		
専攻科目	1年	2	1	10	13	30	27
	2年	2	3	12	17		
合計		36	21	30	87	87	72

成績評価の基準・方法

(概要) 成績の評価は記述試験、課題レポート・ポートフォリオ等の提出、口述等の方法や学校行事を含む受講の参加姿勢(意欲)、実験実習等の内容の理解を加味し、総合的に評価する。なお、科目の形態、目標、内容等を考慮し複数の評価方法を用いる。

実践的な技術や経営方法を習得させるため、講義・演習科目では知識と応用を中心に評価する。実習を伴う科目は技能、取組態度、レポート等を中心に評価する。卒業論文等は研究論文内容、発表時の発表の仕方や応答、取り組み姿勢、その他の評価内容を考慮の上、総合的に評価する。

判定	評点	評価	評価内容基準
合格	80点以上100点以下	優	到達目標を十分に満たしている。
	70点以上80点未満	良	到達目標を概ね満たしている。
	60点以上70点未満	可	到達目標を満たしている。
不合格	60点未満	不可	到達目標を満たしていない。

卒業・進級の認定基準

(概要) 農業大学校進級・卒業認定委員会により本校履修規程に基づき、卒業の要件を認める。卒業要件は選択科目8単位を含む79単位を履修し、教養科目7単位以上、選択科目8単位以上、専門科目30単位以上、専攻科目27単位以上の合計取得単位数72単位以上とする。

学修支援等

(概要) 必修科目等において病気その他やむを得ない事情により定期試験を受ける事ができなかった者や定期試験を受けて合格しなかった者は、原則一回に限り再試験願を提出し再受験することができる。なお、再受験を受ける前に補講を実施し、学習内容の指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
93人 (100%)	1人 (1.1%)	83人 (89.2%)	9人 (9.7%)

(主な就職、業界等)

即就農、農業法人(サンエッグファーム㈱等)、農業協同組合(JAあいち中央等)、農業資材会社(愛知経済連営農支援センター等)、農業機械メーカー(ヤンマーアグリジャパン等)、種苗会社(中神種苗店等)、青果市場(愛知県中央青果等) 進学(日本農業経営大学)

(就職指導内容)

本校は優れた農業後継者と農業の担い手の養成を目指す機関であり、農業自営者を始め、実践的な知識・技術を生かした職業の進路指導として、就職説明会・相談会、面接指導会、セミナーの開催、ハローワーク求人演習会など取組を行っている。

(主な学修成果(資格・検定等))

毒劇物取扱者、危険物取扱者、大型特殊自動車・けん引免許(農耕限定)、小型車両系建設機械、日本農業技術検定

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
189人	3人	1.6%

(中途退学の主な理由)

進路変更、学業不振

(中退防止・中退者支援のための取組)

本校は専攻(7～15名程度)ごとに講義や実習により学んでいる。少人数体制は個々の学生の実態に合わせた指導を行うことができ、日ごろから学生との面接を通して悩みや望ましい方向へのアドバイスを行うなど、きめ細やかな指導を行っている。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
農学科	5,650 円	60,000 円	64,800 円	寄宿舎使用料(2,700 円×24 月)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
学資金制度、農業次世代人材投資資金、日本学生支援機構奨学金 (第一種奨学金、第二種奨学金)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 大学校内で資料閲覧 (学校評価委員会報告書)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 大学校は学校評価を行い、その結果に基づき、教育水準の向上と学校運営の改善を図ることにより、大学校の目的を達成することに努める。 大学校は、学校関係者との連携強化を推進するため、評価結果を公表するものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
龍谷大学農学部 食料農業システム学科	1 年	学識経験者
愛知県立農業大学校同窓会	1 年	同窓会・後援会代表者
愛知県立安城農林高等学校	1 年	農業高校代表者
農業生産法人株式会社中甲	1 年	農業経営者・農業生産法人代表者
愛知県農業協同組合中央会	1 年	生産者代表
中日新聞社事業局社会事業部	1 年	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 大学校内で資料閲覧 (学校評価委員会報告書)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>